（個　人）　　（報　告　：　田　中）

山（山域・ルート）**日暮山（にっくらやま）**

【日時】２３年１１月２２日（火）～　　月　　日（　）（　　泊　　日）

【メンバー】

田　中　　（計　１　名）

日暮山（標高１，２０７m）

【行動記録】

大宮６時（クルマ）⇒小平集落（８時４０分）⇒日暮山（９時５５分～１０時０７分）⇒小平集落（１１時）⇒大宮（１３時５３分）

上り　１時間１５分　下り　５３分

【装備・食料等】

携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、ツエルト、水、食事（昼食）、行動食

【感　想】

この山も「ぐんま百名山」（上毛新聞社発行）では、上級向きとなっている。

しかし、インターネットで調べた情報では、小平集落から、さらに農道が延びていて、車でかなり先まで入っていけるとされている。周回コースの荷倉沢橋から入ると道がなかったり、藪漕ぎを強いられるので、それを避けて小平集落先の農道を車で行けるところまで行って、ピストンで戻ることにした。

農道はどこまでも続いているように見えるが、道もだんだん悪くなってきたので、Uターンの可能な適当な場所を見つけて止めた。結局、農道は最後の急登と云われ道標（山頂まで急斜面と書かれている）の近くまで工事が進められていて、迷うようなところはなかった。快晴の山頂からは、浅間山を初め群馬、新潟の山々、軽井沢の別荘地を身近に見ることができた。１，０００mを越える日暮山はすっかり裸木となっていたが、２５４号線から分かれて、小平集落に向かう下仁田軽井沢線の周辺は真っ赤に染まったカエデ類が多く、低い山々も紅葉真っ盛りで、アマチュアカメラマンの姿も目につきはしたが、雑踏の観光地とは違った静かな山村の秋をひとり楽しみながら帰途に着いた。